

キーボードと私

いまひろえ～
'02/07/20

個人的な歴史（1）

- 中学生～大学生
 - FM-7, FM-77AV
- 大学生（学部生）
 - Sun Type4J
- 研究室配属以降
 - Sun Type4J, Type5J
 - Luna 68k（黒Luna）
 - HP Apollo 715, 735
 - PC9801DA のころのキーボード

個人的な歴史（2）

- それ以降...
 - Mebius A435 のキーボード
 - Panasonic Let's Note (赤玉トラックボール)
 - Winkey G2
 - 普通の 英語配列キーボード
 - HHK Lite PS/2
 - HHK Lite2 USB
 - KINESIS Ergo Elan
 - iBook Dual USB のキーボード

「こだわり」の歴史 – 研究室編

- 条件
 - いろんなキーボードを使わなくてはならない
 - 幸いなことに、X Window System だけ使っていればよい
- どうしたか...
 - Xmodmap で英語配列にすべて統一
 - 英語、日本語キーボードのどちらにもあるキーしか使わない
 - Tab が Ctrl, Alt(Meta) に続く、第3の modifier に

「こだわり」の歴史 – Note PC 編

- とにかく軽いタッチが好き
- 1の左隣にキーがあって欲しい
- スペースバーが細切れでもよい (modifier) として使えて便利
- Winkey は、キーボード（だけ）で選びました

「こだわり」の歴史 – KINESIS 編

- 出張の帰り、HHK を買う予定で立ち寄ったぶらっとほーむで、KINESIS キーボードを発見！
- 財布の中には買えるだけの現金が入っている！
- 即決
- 出張の荷物+でっかいキーボードの箱を抱えて帰る

KINESIS Ergo Elan

- 誰が何といおうと、打ちやすい...と思う
- キーの入れ替えがキーボードでできる
- キーボードマクロ機能があるらしい
- ちょっとでかい（アメリカ人サイズ）
- 親指で押せるキーが沢山あるが、いまいち、押しにくい

「こだわり」の歴史 - Dvorak編

- 英文の入力は本当に楽
- Ctrl-i のつもりが Ctrl-c
- vi の hjkl が...
- 結局断念

「こだわり」の歴史 - 日本語入力編

- Wnn
 - 選択の余地が無かった頃
- Canna
 - 変換の癖が気に入らなかった
- SKK
 - Comuter → コンピュータのような変換が便利
 - よみを補完してくれる
 - 第1次 emacs 時代は、ず〜っと愛用

「こだわり」の歴史 - 日本語入力編

- Onew + Wnn
 - Emacs を捨て、jvim2.0 + onew へ
 - 必要十分な機能
 - jvim3 + Canna
 - jvim のバージョンアップに伴う変更
- ここまでは、
ローマ字かな入力 + かな漢字変換

「こだわり」の歴史 - 日本語入力編

- かな漢字変換エンジンのアホさ加減がいやになった
- 漢直を目指す決意
- jvim + Canna with TUT-Code
 - 漢字 から入力シーケンスを調べることができない

「こだわり」の歴史 - 日本語入力編

- Emacs + viper mode + tc
 - TUTの勉強のために emacs を使う
 - 手が vi なので、viper mode 必須
 - T-Code 入力用に開発された tc が TUT-Code にも対応
 - 漢字の入力シーケンスを表示してくれる

そして今

- KINESIS Ergo Elan
- Microsoft Trackball Explorer
- Emacs + viper mode + SKK with TUT
 - SKK の便利さと, TUT Code 入力
 - 今のお気に入り
- Jvim3 + Canna with TUT

そしてこれから

- Dvorak への再挑戦
 - vi 問題は, map もしくはソース書き換えで対応.
- ローマ字仮名変換テーブル自作 (MacOSX の仮名漢字変換エンジン対応)
 - 仮名漢字変換エンジンが賢くなった
 - しかし, TUT のようなアルファベット並び - 漢字というようなカスタマイズができない
- KINESIS の次に来るもの...